



理事長総括

小坂橋 俊哉

昨年より理事長として会務を執行して参りました。2年間の理事長任期の半分を過ぎ、この間、本学会の管理や運営、諸事業の計画、遂行等に多大なご支援とご協力をいただいた理事、代議員をはじめ、会員の皆様に厚く御礼を申し上げます。ここに2019年から2020年前半を振り返り、総括を述べさせていただきます。

最初に取り組んだことは、厚生労働省や日本専門医機構に対する麻酔科医の必要医師数の算定方法やシーリング数についての交渉でした。2019年初めに、厚生労働省から今後の各診療科の必要養成医師数が公表され、麻酔科など多くの診療科に対してこれまでよりも大幅に削減された数字が出されました。これに対して、稲田前理事長が日本専門医機構に要望書を提出され、その後を引き継いで継続的に交渉を行って参りました。その結果、外科手術のみからではなく、外科系手術総数からの必要養成医師数算出に変更していただきましたが、必要医師数の増加は約30名に留まりました。これは、2016年から2018年の2年間で麻酔科医が447名増加しているためですが、手術室以外の業務に対する麻酔科医への期待も大きく、これからも継続的に交渉を続けて参ります。シーリングについても、大都市圏におけるシーリング強化を阻止いたしました。麻酔科は病院機能維持におけるライフラインと位置づけられており、手術室での麻酔に加えてサブスペシャリティも含め活躍している会員を学会として支援して参ります。

今年に入り新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大が大きな問題となりました。現在、多くの会員がCOVID-19患者の治療に従事され、またCOVID-19患者の全身麻酔を始め各施設で種々のご対応をいただきましたことに、心から敬意と感謝を表したいと思っております。さて、

COVID-19の拡大と緊急事態宣言に伴い、第67回学術集会のWEB開催への変更と全支部学術集会の中止を決定いたしました。会員の学習や研究成果の発表といった貴重な機会の喪失と法人運営に及ぼす経済的影響は甚大であり、今後のウィズコロナの時代に向けて、学術集会や専門医試験の在り方を検討しなければならぬと考えております。また、「COVID-19対策特別委員会」を3月に立ち上げ、手術室制限状況やCOVID-19患者の麻酔経験を会員で共有するためのアンケートを現在も継続しております。ご協力いただきました会員に御礼申し上げます。



教育委員会では、日本専門医機構による麻酔科専門医の更新審査が無事に終了し、2,087名の機構専門医が誕生いたしました。日本麻酔科学会認定指導医にも2,084名が申請し、認定されました。

一方、麻酔科医に対する世間の目は変わらず厳しいものがあります。昨年、「麻酔科医の行動規範」を定めましたが、2003年に制定された「麻酔科医倫理綱領」がベースになっています。周術期管理のプロとして、これからは行動規範に基づいて真摯に業務を遂行していただきますようお願い申し上げます。

元号も令和に代わり、コロナとの共生など時代は刻々と変わってきています。理事長としての1年を振り返ると、最優先事項が日々、入れ替わると言っても過言ではありませんでした。時代に即した新たな戦略を生み出さなければならぬと考えております。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

日本麻酔科学会第68回学術集会の開催にあたって

会長：廣田 和美
(弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座 教授)

この度、日本麻酔科学会第68回学術集会会長を拝命いたしました。東北地区選出の会長は、1993年4月に盛岡市で開催された第40回学術集会の岩手医科大学麻酔学講座教授・涌澤玲児先生以来、28年ぶりとなります。東日本大震災によって、東北地区の医療は大変厳しい状況に置かれ、現在に至っておりますが、そういう意味で東北に何かしらの活力をもたらすことができればと思っておりましたので、会長に選出されたことは、非常に光栄であり、皆様に心より感謝申し上げます。

第68回学術集会は2021年6月3日(木)～5日(土)の3日間、神戸で開催を予定しております。第40回学術集会の時のように東北地区で開催出来れば良いのですが、当時に比べ会員数は大幅に増え参加人数が1万人を超す規模の学術集会となり、この規模の学術集会を適切に行える会場は、東北地区には残念ながらありませんことから、例年通り神戸での開催となりました。どうか御了解いただければと思います。

今回の学術集会のテーマは、「百寿社会と麻酔科医」といたしました。現在、我が国の平均寿命は、男性約81歳、女性約87歳であり、最近の人口動態調査では、2007年生まれの子供の寿命中央値は107歳との予測が出ております。つまり、百寿社会はすぐそこまで来ています。その一方で、健康寿命は男性で約72歳、女性で約75歳と、平均寿命と健康寿命との差は、男性で約9年、女性では約12年あり、健康上問題のある期間が人生の最後に10年近く有ります。このような高齢者が今後手術を受けることが多くなるわけですが、これら高齢患者さん達を、如何に安全にまた術後の回復も速やかに周術期管理を行うかは、麻酔科医の大きな役割と考えます。高齢者は、呼吸器、循環器の合併症や術後せん妄・認知機能低下を起こすことが多いわけですので、これらを予防したり素早く治療したりすることで、穏やかな術後患者さんに提供することが出来ます。また、病院にとっても在院日数短縮が図れ、

厳しい環境下にある病院経営にも貢献できます。高齢者の皆さんに健康で幸せな人生を送って貰うために、我々麻酔科医は、高齢患者さんの周術期管理に関する研究を臨床・基礎両面から行い、その成果を社会に還元する努力をしていく必要があると思っています。そういう観点から、本学術集会では、如何にしたら百寿社会に麻酔科医は貢献できるかを皆さんとともに考えていきたいと思っています。



これとは別に、昨今、働き方改革が叫ばれておりますが、麻酔科領域では特に女性医師の占める割合が他の領域に比べて高いという特徴があり、通常の医師の働き方改革をそのまま当てはめるのは難しいと思っています。働き手である若手麻酔科医の多くを占める女性麻酔科医は、男性麻酔科医と違って産休、育休がキャリア形成の重要な時期に来ることや我国の男女共同参画が先進諸国に比べて遅れていることから、麻酔科医師の働き方改革に大きな問題を投げかけています。このため、この点も開催期間中に招待講演、シンポジウム等で皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

会員の皆様のご期待に応えられる学術集会となるよう、学術集会実行委員会の委員と共に、現在領域ごとに鋭意企画を練っているところであります。日常臨床が多忙でなかなか時間を取ることが難しいとは存じますが、本学術集会に御参加いただき、新しい知見を得て明日からの診療に役立てていただければと心より願っております。

皆様の多数の御参加を心よりお待ちしております。

追記：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、第67回学術集会はWeb開催となり、第68回学術集会と併催予定でしたISHA(国際麻酔科学史シンポジウム)の延期も決まりました。今後、第68回学術集会の通常開催が可能かどうか、COVID-19の流行状況を見極めた上で変更も含め決定させていただきますので、どうかご寛容の程宜しく願いいたします。

2021年度

支部学術集会
開催日程



Table with 2 columns: 学術集会名 (Academic Meeting Name) and 日程 (Schedule). It lists six regional academic meetings with their respective dates, presidents, and venues.

2021年度 学会賞募集について

(公社)日本麻酔科学会の学会賞を募集しております。各賞の応募要項をご確認の上ご応募ください。多くのご応募をお待ちしております。募集要項等、詳細は学会HPをご覧ください。

山村記念賞

日本麻酔科学会の最高の賞として最も優秀な業績をあげた会員に授与する

2020年10月20日(火)必着

青洲賞

日本麻酔科学会において最も優秀な臨床研究業績をあげた会員に授与する

2020年10月20日(火)必着

松木賞

麻酔科学史及び関連した医学史に関して、優れた研究業績をあげた個人または団体に対し授与する

2020年10月20日(火)必着

若手奨励賞

日本麻酔科学会において最も優秀な研究論文を発表した会員に授与する

2021年1月20日(水)必着

社会賞

麻酔科学のためのみならず広く社会に貢献した個人あるいは団体に対する賞とする

2020年11月20日(金)必着

2020年度支部学術集会 参加単位・発表単位付与に関するご案内

公益社団法人 日本麻酔科学会 理事長 小坂橋 俊哉 | 教育委員会 委員長 中塚 秀輝 | 学術委員会 委員長 川真田 樹人

謹啓 平素は大変お世話になっております。新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言が発令されたことにより、関連企業、就業人員の安全を最優先とし、本学会業務運営においてもあらゆる機能を停止せざるを得ませんでした。

学会事業、催事の一つとなる2020年度支部学術集会におきましても、当該期間に準備期間、システム構築期間が集中しており、中止する運びとなりました。中止により支部学術集会で得られなかった単位につきましては、以下の措置を講じることといたしましたので、必要に応じて手続きを行っていただきますようお願い申し上げます。

謹白

支部学術集会参加単位

既存のe-Learningシステムにおいて『支部学術集会参加用』講演を配信いたします。こちらの受講を以って単位付与とさせていただきます。

■配信期間と単位付与時期

2020年8月6日以降～2020年11月30日(申込可能期間は11月15日迄) ※通常e-Learning同様、配信期間中に最初から最後まで早送り等の機能を使用せず閲覧し、『終了ボタン』で終了後、チェックテストに合格すると数日でマイページに単位が反映されます。

■アクセス方法

会員専用ページログイン▶マイページ▶e-Learningより受講

■金額

1講義=4,000円 (最大2講習まで受講、4単位取得が可能)

■対象講習

「医学と障害・令和の時代に期待する」 「臨床研究法が求める研究指針」

■参加証明書の発行について

発行希望理由、用途をご記入の上、問い合わせフォームよりご連絡ください。 ※弊会への資格申請はマイページに自動反映されるため、本証明書は不要です。

支部学術集会発表単位

■2020年度開催分に関する措置はございません

但し、以下に該当する方には特例措置が講じられます。

＜対象者＞

2021年度専門医新規申請者 (算定単位対象期間2021年3月31日までの方)

＜特例措置＞

前項の対象者に限り、2021年度の年次学術集会(第68回学術集会)、2021年度支部学術集会の発表単位を算定可能といたします。

＜申請方法＞

2021年度専門医新規申請ページ(ホームページ)でご案内いたします。通常申請とは扱いが別になりますので、申請書類提出先が異なります。ホームページに記載されたご案内を十分にご確認の上、『特例措置申請係』宛へ申請いただきますようお願いいたします。宛先間違い等で通常申請となった際は、通常の審査が行われ、不合格となります。

各種認定資格の申請について

機構専門医・認定指導医・麻酔科認定医の新規及び更新申請を、2020年9月1日～10月31日【消印有効】で受け付けます。

専門医、認定医について今年度更新が必要な方には、2020年7月に事務局より更新申請案内をご登録いただいておりますメールアドレスに送付していますので、必要書類のご準備をお願いいたします。認定指導医については昨年度制度が一新され、申請開始となった資格のため、更新申請はなく全て新規申請となります。ホームページにご案内しておりますのでご確認ください。

申請の際には下記の点にご注意ください。

- ▶事務局への申請書類送付の際には、簡易書留あるいは宅配便をお使いください。
- ▶職務経歴書・麻酔経歴書の書類不備(署名・押印の不足)は、施設の統廃合以外の理由では認められません。お早めに申請書類をご準備ください。
- ▶審査料について
 - 認定指導医：20,000円(税別)
 - 機構専門医：30,000円(税別)
 - 認定医：10,000円(税別)
- ▶一度、お支払いいただきました審査料はいかなる理由があっても返金できませんので、審査料をお支払いされる前に、必ず申請条件をご確認ください。

また、今年度更新申請が必要な麻酔科認定病院につきましては、8月に施設長宛てに更新申請案内をお送りしております。代表専門医の先生方におかれましては、2020年9月1日～10月31日【消印有効】の間に更新申請をしてください。あわせて、2019年11月に代表専門医の要件が変更となっておりますので、詳細はホームページでご確認いただきますよう、お願いいたします。

周術期管理チーム委員会より

特定行為研修パッケージ開設

2020年度より、正しい知識を持った麻酔科専門医の指示により、十分な研修を受けた看護師が特定行為を実施することを実現するため、周術期管理チーム看護師の次のステップとして日本麻酔科学会が行う特定行為研修パッケージを開設いたしました。

次回、協力施設申請の受付は、2020年12月1日より開始予定です。

申請要件、方法等についてはホームページよりご確認賜りますよう、関係者にご周知ください。

 **周術期特定行為研修制度について**
https://anesth.or.jp/users/person/perioperative_training

周術期管理チーム認定制度

2014年度より看護師、2016年度薬剤師、2017年度臨床工学技師と職種毎にそれぞれ認定制度を開始しております。

 **周術期管理チーム認定制度 HP**
<http://public.perioperative-management.jp>

※各種書籍はAmazon、書店でお買い求めいただけます。

日本麻酔科学会 COVID-19 対策 特別委員会アンケート結果について

COVID-19が広がっていく中で日本麻酔科学会では、2020年3月末よりCOVID-19対策特別委員会を発足し、いくつかの提言を行ってきました。提言の発信と平行して2020年4月中旬からはCOVID-19陽性または疑い症例での麻酔Case Reportと手術制限に関する2種類のアンケート調査を開始しました。本調査は毎週行われ、日本麻酔科学会ホームページ上で毎週結果を報告しております。

Case Reportはこれまでに5週間分の回答結果が集計できました。Case Reportでは総計67例のCOVID-19陽性または疑い症例が登録されています。14例のCOVID-19陽性患者では帝王切開が5例と最も多く、次いで気管切開が4例でした。53例のCOVID-19疑い症例では腹部外科手術が14例と最も多く、次いで脳外科手術が11例、帝王切開が8例でした。半数以上の症例では事前にシミュレーションが行われ、気管挿管例の8割ではビデオ喉頭鏡が用いられていました。約半数でフェイスシールドが、8割以上がN95マスクを着用していました。

手術制限アンケートでは一週間の手術件数とともに前年の年間手術件数を報告してもらいました。これによって週間手術件数前年度比を計算し、%で表しました。参加施設数は平均で520施設、総手術室数は平均で3735室、週間手術件数は平均で24298件でした。期間を通じて週間手術件数前年度比は全国平均でおおよそ80%を推移しております。東京を含む関東甲信越地方は常に前年度比が全国平均よりも低く70%前後で推移、東京都ではおおよそ60%で推移していました。逆に中国・四国地方や東海・北陸地方では全国平均よりも高い傾向でした。

今回の2種類のアンケートでは約一ヶ月で60例以上のCOVID-19陽性・疑い症例が手術を受けていました。感染防御には時間と手間がかかり、大変な労力を使っている現状です。手術制限アンケートでは、全国の手術件数は約20%前年度より減少しており、日本の手術医療はまだ回復していないと言えます。今回の結果から試算すると、週間でも日本全国では15000-20000件の手術が減少している事となります。

今後も定期的に結果を報告していきますので、調査へのご協力を宜しくお願いいたします。

日本麻酔科学会 COVID-19対策特別委員会
 岡山大学病院 麻酔科蘇生科 森松 博史

ISHA 開催日程変更のお知らせ

日本開催となった10th ISHA (International Symposium on the History of Anesthesia) は、2021年開催の第68回学術集会併催の形で開催予定としておりました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大は今なお収束の目途がたっておらず、また、国際学会であるISHAは海外から多くの参加者を見込んでいることから、渡航の状況が不透明なままでの開催は難しいと考え、会期を1年後の第69回学術集会に合わせ2022年6月16日(木)～18日(土)に延期することを決定いたしました。

既に講演について内諾をいただいている先生方もおられ、大変ご面倒をおかけいたしますが、何卒ご理解いただき、2022年の開催に向けて引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

10th ISHA 会長 齋藤 繁

2020年度 第59回麻酔科専門医認定試験について

2020年度第59回麻酔科専門医認定試験についてお知らせいたします。

筆記試験

試験日：2020年10月25日(日)

試験会場：神戸ポートピアホテル(神戸会場)・
 TOC有明・ベルサール神田(東京会場)

口頭試験

試験日：2020年10月30日(金)～11月1日(土)予定

試験会場：神戸ポートピアホテル

- 筆記試験は複数会場(東京会場・神戸会場)、口頭試験は1会場(神戸会場のみ)で実施します。
- 試験範囲は、「麻酔科医のための教育ガイドライン-改訂第3版-」の内容です。ガイドラインは学会ホームページの「指針・ガイドライン」のページに掲載しておりますのでご確認ください。
- 過去問題について
 筆記試験について…克誠堂出版「問題解説集」を参考ください。
 口頭試験、専門医試験講評について…学会HPに掲載

【HP掲載場所】

 学会HPログイン→「各種認定情報・資格申請」→「専門医試験(過去問)」



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 廣田 和美

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2020年4月から5月までに、ホームページに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら学会お問い合わせ (<https://anesth.or.jp/users/contact>) よりご連絡ください。

故障情報掲載ページ



https://anesth.or.jp/users/person/safety_initiatives/heads_up

日本麻酔科学会トップページ→医療関係者の皆様→安全への取り組み→麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 「Tec6 プラス 気化器 デスフルラン」の故障について

- 製品名** Tec6 プラス 気化器 デスフルラン
使用年数：6年（耐用年数：7年）
- 事象** 電源が入っていない（作動中のランプが点灯せず）、ダイヤルは回らないはずが、ダイヤルは回ってしまった。
- 原因** 濃度設定のダイヤルの解除（ダイヤルリリース）をロックする内部部品「ソレノイド」の不良。
- 対応**
 1. Tec6 プラス用の電源ケーブルを麻酔器背面のサービスコンセントに差込み、電源サーキットブレーカーがONの状態であることを確認してください。
 2. 通電後、アラーム、インジケーター、麻酔剤レベル表示バーを確認し、麻酔剤は必要に応じて充填を行ってください。
 3. 本装置は電源を供給した状態でご使用いただき、ウォームアップ中は、ロック機構によりダイヤルが回転できないことを確認してください。
 4. ご使用中は、麻酔ガスモニタリングを実施してください。

GEヘルスケア・ジャパン株式会社 麻酔器 Avanceの始業点検時リークについての注意喚起

- 製品名** 麻酔システム アバンス
使用年数：7年（耐用年数：7年）
- 事象** 当該機器において、始業前点検の回路リークテストでリークが確認された為、テストがパスせず、次へ進むことが出来なかった。
- 原因** ディスポーザブルマルチアブソーバーからの回路リークに関しまして、当該製品の回収ができず調査及び原因の特定にはいたりませんでした。
- 対応** 始業点検にて、アブソーバーからの回路リークが疑われた場合、または不良が発見された場合は、新しいディスポーザブルマルチアブソーバーに交換、再度始業点検を行い確認する。

パラマウントベッド株式会社 ホットドック患者加温システム発火についての注意喚起

- 製品名** HOT DOG PATIENT WARMING
患者加温システム コントローラー WC5X型
(225AIBZX00047000)

- 事象** 患者加温用の機器が発火するという事象がありました。使用中に本体より突然数発の爆発音とともに発火、スタッフがコンセントを引き抜くと火は治まり、煤と煙が本体より漏れ出しました。
- 原因** 電源基板に使用しているダイオードの故障に起因する可能性が高いことが判明しました。
- 対応** 本製品にかかわらず突発的な故障等はありませんので、発火や緊急時の施設管理手順をご確認ください。

ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社 ガス濃度異常の注意喚起

- 製品名** FLOW-i 麻酔システム
(マッケ・クリティカルケア社製・スウェーデン)
モデル：FLOW-i C20
使用年数：2ヶ月（耐用年数：7年）
- 事象** 当該機器使用中、FiO2および麻酔ガス濃度が減少し異音が出た。MAN（手動換気）およびAGC（自動ガスコントロール）使用時でも同様事象が発生した。
- 原因** 当該機器のエアガスモジュールに異常は検出されなかったものの、類似事例の調査結果より、エアガスモジュール内部部品の相互作用により、ソレノイドの動作に影響を及ぼし、エアガスモジュールから供給される流量に障害が生じた可能性が推察される。
- 対応** エアガスモジュールを交換

ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社 始業点検不合格の注意喚起

- 製品名** FLOW-i 麻酔システム (Flow-c)
(マッケ・クリティカルケア社製・スウェーデン)
モデル：Flow-c
使用年数：2ヶ月（耐用年数：7年）
- 事象** 当該機器の始業点検項目のO2フラッシュテスト、圧センサテスト、自動リークで不合格となった。
- 原因** 当該機器 Vaporizer bypass valveの不具合
- 対応** 本体内部ガス制御部にある Vaporizer bypass valve 上部のナットを交換。



Covid-19の遺産

秋田大学医学部附属病院 麻酔科 **新山 幸俊**

本年2月、私は秋田大学に赴任したが、その直後、Covid-19により世界は大混乱に陥った。県をまたいだ移動も制限されたため、単身赴任の私はとにかくやる事がなくて、ある週末にはTHE 虎舞竜の「ロード」を第13章まですべて聴いてしまったくらい暇だった。この数か月でわれわれは多くのものを失ったが、得たものもある。WEBを用いたりリモートワークの確立は、今回の混乱の中で生まれた最もポジティブな遺産だろう。マイクロソフト社のサティア・ナデラCEOは「2年分に相当するデジタル変革が2か月で起こるのを見た。」と言ったそうだ。TwitterやInstagramをやらず、TikTokに至っては、それが何なのか全く分かっていないアナログ人間の私にとっては2年どころか20年分の大変革だ。教室を主宰するにあたり、私にはやりたいことがあったが、そのひとつが後期研修医への系統講義だ。この教室を信じて将来を託してくれた彼らの研修のためにできることは何でもやるつもりでいる。ただ、講義を行うとなると県内のさまざまな施設で勤務している彼らを週末に集めなければならない、それが彼らの負担となるため困っていたが、WEBでの講義体制を構築することで実現できそうだ。講師として講義を行ってくれる教室員にとっても新たな知識が得られる筈で、両者にとってメリットがある。

講義以外でやりたかったことに教室HPのリニューアルがある。手術室担当の薬剤師さんの奥さんが地元のプロバスケットボールチームのHPを製作されたと知って、無理を承知で頼んでみた。その結果、彼女が作ってみたいぶっ飛んだ(患者さんが不快に感じないレベル)HPを試験的に作ることを条件に破格の値段で快諾してもらった。7月にリニューアル予定だったが、Covid-19に対する企業への対応で彼女が多忙となったため、残念ながら延期されている。更新された際にはぜひご覧いただきたい。

夏山診療所に参加して

女子医科大学東医療センター 麻酔科 **有山 淳**

大学を卒業してからほぼ毎年北アルプスにある太郎平小屋に夏季開設される夏山診療所に参加している。小屋主の弟が日本医科大学山岳部OBだった縁で日本医科大学ワンダーフォーゲル部と山岳部のOBが1995年からボランティアで運営している。他の山岳診療所のように大学病院の組織的バックアップがあるわけではない。小屋の六畳一間を使って細々とした運営である。

太郎平はアルプスの中ではあまり知られていない場所だがお花畑や池塘に映る山々の姿が美しく。登山道はきれいに整備されていて登山初心者でも時間をかければ必ずたどり着ける。

例年診療所で多いのは慣れない登山で疲労困憊、睡眠がとれない、といった内科寄りの患者である。北アルプス縦走コースの終着点であるために頑張ってきたものの疲労の蓄積、睡眠不足による疲労からこむら返り、脱水で投薬や点滴が必要になることも多い。

今年はCOVID19に診療所は対応しなければならない。本当に手探り状態、どうしたらいいのか。宿泊者の検温、手洗い、アルコール消毒、換気の徹底等、下界と同じルーチンとなる。接客側はさらに小屋内、特に宿泊部屋、共同スペース(食堂等)の消毒、フェイスシールドの装着も準備している。登山中はソーシャルディスタンスを守りながらになるのか?登山中マスクは必要か?問題は山積みである。北アルプスの山小屋協会はコロナ対策でガイドラインを2020年6月15日に発表している。各自治体や団体も各々活動ガイドラインをネットで公開した。一方登山医学学会のホームページには「なお、当学会では、今後も正確な医学情報と安全な登山のための知識をお知らせすべく、HP上の記事を更新して参ります。」と2020年5月19日に最後の更新をしてから一か月以上音沙汰なしである。予約客前提でというのが来客は原則全員受け入れなければならない。とするとテント泊が密を避けるには推奨されるかもしれない。コロナウイルス対策をしながらも共存して前に進んでいくのか、登山のスタイルも変わっていくだろう。今年は試行

錯誤しながら夏山診療所の役目を模索していくことになりそうだ。

参考文献

CDCの発信に基づいた登山再開に向けた知識 計画と準備編 山岳医療救助機構
https://sangakui.jp/data/wp-content/uploads/tozan_knowledge_preplan_version1s.pdf

新任のご挨拶

藤田医科大学岡崎医療センター 麻酔・蘇生学講座 教授 **望月 利昭**

この度、2020年4月1日付けで藤田医科大学岡崎医療センターに新設の麻酔・蘇生学講座教授を拝命いたしました。着任にあたり関係の方々には多大なご尽力を賜りました。心より御礼を申し上げます。

私は1987年に浜松医科大学医学部卒業後、同大学麻酔科学教室に入局しました。当時のお世辞にも優秀とは言えない私をなんとか麻酔科医として生活できる水準まで引き上げてくださった教室の諸先生方に感謝しています。1996年から2年間米国エモリー医科大学J H Levy教授の元に研究留学をさせていただきました。1998年には「人工心肺中のヘパリン中和のためにプロタミンを過剰投与すると凝固能は再抑制される」ことを発表しました。この知見は2013年に米国3学会共同人工心肺抗凝固ガイドラインClass IIa推奨「プロタミン：ヘパリン投与比は2.6 mg：100単位を上回らないこと」の論拠となりました。自分の研究が診療の役に立ったことは後年の心の支えとなりました。帰国後、東京都立八王子小児病院麻酔科を経て浜松医科大学麻酔・蘇生学講座に戻りました。40歳代を目前とした頃一念発起をし、麻酔科関連診療のかたわらLangendorff装置を用いた心筋虚血再灌流障害軽減の研究を始めました。2011年のヨーロッパ麻酔学会ではBest Abstract Presentation CompetitionのFinalistになるなど麻酔科医コミュニティの懐の深さを知りました。

常勤麻酔科医が急減した静岡市立静岡病院に2014年から勤務しました。2013年度には1640件だった麻酔科管理手術件数を2019年度には2862件とするなど、麻酔科再建に力を尽くしました。この度藤田医科大学岡崎医療センター麻酔科の立ち上げを担当させていただくことになりましたが、元より浅学非才の身であります。しかし、地域の要として、また大学病院としての役割を果たすべく精進してゆく所存です。日本麻酔科学会の諸先生方におかれましてはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

たかがエアー麻酔、されどエアー麻酔

兵庫医科大学 麻酔科学・疼痛制御科学講座 **狩谷 伸享**

私が2007年からお世話になっている今の職場は、それまで高機能患者シミュレーターを使った教育を熱心にやっていました。「門前の小僧」の如く、やり方を見よう見真似でシミュレーターを使って、シナリオトレーニング(以下、エアー麻酔)をやってきました。

私は、埼玉医科大学総合医療センターの照井克生先生に、ご指導いただいた産科麻酔好きでもありますが、「エアー産科麻酔」といえば、超緊急帝王切開のシナリオは多くの施設が、一度は経験されているのではないのでしょうか。産科危機的出血のシナリオを、練習されている先生もおられると思います。兵庫医大では、麻酔科の入職者を対象に、春先に「エアー産科麻酔」と、麻酔科医、産科医、助産師、NICUの合同「エアー産科麻酔」を行っています。

産科病棟の助産師さんを対象にした、「エアー病棟急変対応」も昨年度は3回実施し、アイセンターの「エアー局麻急変対応」も、毎年行っています。

2019年は、学内外の小さなものも含めて(業績にもなりません、自己申告で)「110回のエアー麻酔」を経験させていただきました。

少し工夫をすれば、どなたでもどこの施設でも実際の施設を使ったin situエアー麻酔が、可能です。シナリオシミュレーションを通じて、産科麻酔の魅力を、麻酔科医のための産科麻酔プロフェッショナルセミナー「産科麻酔に参加しよう」や、母体救命システム普及協議会(J-CIMELS)でお伝えしていくのが目下の目標です。

「ちょっとしたコツ」さえつかめば、開催のハードルは下がって、どんどん開催したくなってきます。気づかぬうちに、チームの危機管理能力は、アップしていきます。

大切なのが「実」麻酔なのは言うまでもありませんが、「実」麻酔で手が届きにくい部分をゆっくりと「エアー麻酔」でトレーニングしてみませんか。たかが「エアー麻酔」、されど「エアー麻酔」。

**2020年度
選挙スケジュール**

2020年度選挙は右記の通り
行う予定です。

公益社団法人日本麻酔科学会
選挙管理委員会
委員長 上村 裕一

2020年 9月 7日(月)	: 女性枠代議員選任選挙・投票締切
2020年 9月 8日(火)～9月14日(月)	: 女性枠代議員選任選挙開票・選挙結果公示
2020年 9月17日(木)	: 理事候補者(全国・支部・女性枠)選出選挙施行会告・立候補受付開始
2020年10月 2日(金)	: 理事候補者選出選挙・立候補締切・審査及び立候補者確定
2020年10月12日(月)	: 理事候補者選出選挙投票開始
2020年10月30日(金)	: 理事候補者選出選挙・投票締切
2020年 11月 2日(月)～11月9日(月)	: 理事候補者選出選挙開票・選挙結果公示
2020年11月13日(金)	: 理事長予備選挙開始
2020年11月25日(水)	: 理事長予備選挙締切
2020年11月26日(木)～12月2日(水)	: 理事長予備選挙開票・選挙結果公示
2021年 1月 以降	: 理事就任予定者会議開催(次期理事長選出)



年会費について

2020年度年会費の支払期日は2020年9月30日です。まだお支払い
でない方は、至急お支払ください。会員専用ページにログイン後、「マイ
ページ」→「プロフィール」→「年会費支払照会」より画面に従って
お手続きをお願いいたします。

入会について —ご周知ください—

毎月10日までにWEB申込及び必要書類の提出が完了している方
を審査し、同月15日付けで入会承認可否のメールをいたします。承認
された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット
決済で年会費を入金していただくことになり、入金完了時点で会員
となります。

※一旦退会後、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行っ
てください。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと
合わせて入会年度の年会費をお支払いいただき、再入会となりま
す。ただし、認定資格は再入会しても復活しません。取得し直し
ていただく必要があります。

会員(IC)カード発行について

次回、会員(IC)カードの発行は、2020年9月中旬～下旬です。

会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録
(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退
室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プ
ロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続
きを行ってください。

編集後記

第67回の日本麻酔科学会は、実現に向けて各方面が不断の努力
を続けてきたにも関わらず、COVID-19の影響によりWEB開催と
なってしまった。

準備を重ねてきた演者の方々や協賛企業の方々には大変なご苦勞
をかけることになったが、何とか形として実現できたことは幸いで
ある。

演者や各会員との出会い・再会に懇親会、目の前で繰り広げられ
るライブ講演やハンズオン、機器に触れるなどの機会が失われること
は大変残念でならない。しかし、WEB学会にはこれまでにない利
点がある。旅費と時間を節約し、日常勤務も続け、外科系医師の期
待に応えながら学会プログラムの聴講ができる。二者択一でどっち
を聞こうかという悩みすら無縁。そもそもどこかの動画サービスば
りに「2か月間全コンテンツ見放題」なのだ。

これまで聴講しなかった講演などにも是非アクセスし、新たな発
見と明日からの麻酔のヒントを得る場として最大限活用していただ
きたい。

今後、WEB学会が、もっとアソビ要素を設け、単位を忘れてのめ
り込むような工夫のある、楽しく実のあるものになればと期待する。

(広報委員会 委員 鈴木 昭広)

**公益社団法人 日本麻酔科学会
NEWS LETTER**

2020 Vol.28 no.3
https://anesth.or.jp
2020年8月20日発行
©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。
無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 川口 昌彦
[広報副委員長] 水野 圭一郎
[広報委員] 讃岐 美智義、渋谷 博美、鈴木 昭広、角倉 弘行
〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
神戸キメックセンタービル3階
TEL:(代表)078-306-5945
(認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078
FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230